

令和7年度 看護業務改善のためのICT導入アドバイザー派遣業務

ICT導入による 看護業務改善の事例

医療法人積仁会 旭ヶ丘病院
看護部 川野奈緒美



1、当院の概要

- 142床（一般・地ケア・回リハ・療養）
- 2次救急病院

2026年8月 57床（地ケア・回リハ）増床
デイケアオープン

介護医療院・訪問診療（24時間）・訪問看護（24時間）
訪問介護・ケアプランセンター・訪問リハビリを併設

介護施設や在宅からの入院

大学病院等急性期からの転院受入が3割でその後の手厚い退院支援が役割

病院の特徴

療養病棟（60床）

稼働率：99.9%

平均在院日数：105.7日

在宅復帰率：84.2%

その他：経口摂取へ移行2～3名/月

褥瘡治癒は月5ヵ所程度

終身ではなく処置が重い患者が多い

人工呼吸器5台運用（ウイニングあり）

一般・地ケア（45床）

稼働率：94.5%・98.4%

平均在院日数：12.7日・16.9日

在宅復帰率：基準なし・82.6%

その他：整形外科OP・ポート造設・胃ろう造設

外来

がん化学療法・救外兼務・健診兼務

回りハ（37床）

稼働率：101%

平均在院日数：59日

在宅復帰率：93.2%

その他：経口摂取への移行2～5名/月

2、本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

- ①生産性向上・職場環境整備等事業のお知らせが来た時に、通常では購入が難しいと考えていたポータブルレントゲンやポータブルエコーの提案をした。
- ②24時間対応の訪問診療・訪問看護と訪問介護等を運営しており、地域における在宅部門への期待が大きい。
- ③介護施設からの外来受診や入院相談が多く、外来受診には半日程度の時間がかかり、施設付き添い職員等の負担が大きい。

本事業の目的

対象：療養病棟・在宅・介護施設等

- ①特定行為を含めた看護師の業務拡大で、医師の業務負担軽減と早期発見につながり、地域医療に貢献できる。
- ②日常業務全体のヒアリングとアドバイスが受けられることで、客観的視点からも業務整理・改善ができる。
- ③新規導入のポケットエコーを活用するためのアドバイスを受けることができる。

3、取組み予定期間と主な内容

期間	取組み
令和7年	<ul style="list-style-type: none">・看護業務課題の抽出、導入するICT機器の検討・ICT機器を導入せずとも改善可能な業務の改善方針の検討・反映・業務改善の院内での進め方に関する合意形成・想定したICT機器の導入・現場への使用方法レクチャー
令和8年	<ul style="list-style-type: none">・導入後のICT機器の効果測定
令和9年	<ul style="list-style-type: none">・導入後のICT機器の効果測定・1～2年目の取り組みの振り返り、4年目以降での得汲むべき課題の洗い出し
令和10年	<ul style="list-style-type: none">・3年目に洗い出された課題への取り組み

4、課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

- 目的

- ①施設・在宅との連携強化
- ②看護師の業務拡大

- 目標

- ①地域の在宅や施設職員の業務負担軽減ができる。
(外来受診の負担を減らす)
- ②手技やアセスメント力を高めることができる。

5、取組み内容の一部紹介 (療養病棟で業務改善を行う業務)

	業務改善する内容	用いるICT機器等	従来 of 所要件数 (年)	想定削減 (年)	業務全体に 占める割合
1	導尿・留置カテーテルに係る業務	ポケットエコー	240件	72件削減	5%
2	排便援助に係る業務 医用費削減	ポケットエコー	下剤処方 浣腸730個 摘便1095件	3削減 365個削減 540件削減	6%
3	バイタル測定業務	スポットチェックモニタ	183時間	91時間削減	5%
外来					
4	<u>外来検査等説明業務</u> <u>上部・下部内視鏡・造影CT</u>	メディカルクリップ	17.6時間	8.6時間	5.5%

療養では拘縮している患者も多く、スポットチェックモニタでは血圧が測定できない(手首用がない)

6、ICTのご紹介 (Vscan Air SL/CL)

ワイヤレスタイプの超音波画像診断装置。可視化したデータに基づき、よりの確な診察やケアを迅速に行い、患者ケアの質の向上に寄与

製品の概要

- 2010年にシリーズ発売、改良を重ねている
- プローブとの接続ケーブルが不要なワイヤレスタイプの超音波画像診断装置
- 表示端末はiOS端末またはAndroid端末を別途用意する必要がある(SIM契約は必須ではない)
- 使用用途に合わせてVscan Air CL(コンベックス2-5MHz、リニア3-12MHz、205g)/Vscan Air SL(セクタ1.6-3.7MHz、リニア3-12MHz、218g)を選択
- ワイヤレス充電器で充電、プローブ連続使用時間50分
- 2点間距離計測(複数個所の計測が可能)、周囲長計測(エリプス法)、流速、時間間隔、スロープ、心拍、産科計測
- MyRemoteShareを追加購入することにより、リアルタイムにエコー検査の画面共有が実施でき、エコー初学者の指導、意見交換など様々な教育用途での使用が可能
- 画像や患者データは、WPA2準拠、データ暗号化、ユーザー認証の設定によるアクセス制限により保護される。DICOM接続可能
- 特定診療報酬算定医療機器の区分「超音波検査(Ⅱ)」の保険適用希望書提出済み



課題と期待される効果

コンベックス
2台購入

タブレットは小
を選択

2台で税込み
価格
1,870,000円
(便秘判定・尿
量測定AI付き)

課題

- 院外での検査がしたい、画像を共有しながらコンサルテーションをリアルタイムに行いたい。

期待される効果

- 画像データをリアルタイムで共有し診断ができる。必要に応じてその場で助言を得ながら画像取得ができる。

7、ポケットエコー導入により見込まれる効果

測定したい効果	定性 定量	測定方法	目標値	測定時期
①療養病棟での検証	定量	導入前後の下剤や浣腸・摘便などを比較する	処方3割削減 浣腸365個削減 摘便540件削減	導入前年度 導入後1年後
②在宅・施設での検査実施件数の増加	定量	導入の前年度と導入後1年経過した年とで、在宅施設での検査件数に変化があるかを比較する	年間10件以上増加	導入前年度 導入1年後
③在宅医療への満足感の向上	定性	導入前後の期間において、患者を数名ランダムに選定し、手続き・検査対応への満足感やストレス度合について聞き取り調査を行う	患者の半数以上が導入後の運用に満足している	導入1ヶ月前 導入1年後
④医師の検査業務負担軽減 ⑤看護師による検査件数の増加	定量	導入前後の期間において、医師・看護師が実施した検査件数を導入前後で比較する	医師：3件以上削減 看護師：10件以上増加	導入1ヶ月前 導入6ヶ月後
⑥看護師の専門性・役割拡大によるモチベーション向上	定性	導入前後の期間において、看護師を対象にアンケート調査を行い、役割拡大に関する満足度を比較する	看護師の半数以上が導入後の運用に満足している	導入1ヶ月前 導入6ヶ月後
⑦医師と看護師の協働強化	定性	導入前後の期間において、医師・看護師双方を対象にアンケート調査を行い、協働の質を比較する	医師・看護師の半数以上が導入後の運用に「改善」を感じる	導入1ヶ月前 導入6ヶ月後
⑧在宅医療サービス提供件数の増加	定量	導入の前年度と導入後1年経過した年とで、在宅医療サービス提供件数に変化があるかどうかを比較する	年間5件以上増加	導入前年度 導入1年後

8、本事業全体を通して得られた効果・影響

- 業務改善計画を後押ししてくれる事業であった。
- ポケットエコーを自主的に学習するスタッフが増えた。
- 不必要な処置削減で医療費削減につながった。
- アセスメントの裏付けになる手技の習得で医療安全につながった。
- 患者の負担軽減につながった。
- 地域連携の促進につながった。
- 客観的視点から院内看護業務の振り返りと業務整理が明確になった。

9、当院での取り組みポイント

- ポケットエコー導入提案時には院長や医師からは前向きな意見が聞かれなかったが、将来に向けた質向上や地域貢献等の説明で承諾を得た。
- ポケットエコーを有効に使うためには段階的に計画することや期間が必要である。まずは院内の療養病棟で実践し、介護施設や在宅で実践できる力をつける。
- 排尿アセスメントでの活用からスタートしており、有効に活用できている。
- チームを作って取り組んでいる。
- 取り組み意識が低下しないよう目標管理に入れる。
- 地域の医療・福祉の連携は重要で、他施設の要望を取り入れた取り組みを意識した。

10、今後の展望

- 今回のような補助金や業務改善事業などが継続されることで、院外でポータブルレントゲンの撮影ができることを目指したい。介護施設や在宅職員の負担軽減と、病気の早期発見や治療にむずびつく。今後の制度に期待したい。
- 急性期治療後の医療や介護の整備がすすむと、理想の地域包括ケアシステムに近づける。

ご清聴ありがとうございました。